

白石和紙

白石和紙蔵富人代表 阿部桂治さん



和紙うちわ作りの体験を希望する海外の方が増えています。特に欧米系が多い印象です。和紙の説明では、千年持つと言われる和紙の強さ、しなやかさに感心していただいています。蔵富人では、市内全中学校の卒業証書や、市内小学6年生と中学生に和紙を活用した絵手紙体験を継続的に行っています。また、20年以上行っている「白石和紙

あかり」のワークショップには、北海道など遠方の方々も参加いただいています。白石和紙がきっかけとなり、白石市を訪れてもらっていることは励みになりますね。地元の方々に、より一層白石和紙に親しみを持ってもらえることを願っています。



▲和紙うちわ作り体験の様子



▲壽丸屋敷では白石和紙製品を販売

白石温麺

やまぶき亭料理長 菅野裕太さん



コロナ禍は店の存続も危うくなるほど大変でしたが、耐えながら休まず営業してきました。コロナ禍後は、円安の影響もあり、世の中の流れが変わったという印象を持っています。仙台空港の便数増の影響もあり、台湾や中国、香港などのお客さまが増えています。白石温麺は、油を使用していない素材という強みがあります。国によって異なる食文化にも柔軟に対応できる食材です。私はあくまでも白石温麺の引き立て役として、文

化庁から100年フードに認定された白石温麺という伝統食を繋いでいきたいと思っています。そして、未来に可能性がある白石温麺を世界に共通するソウルフードにしたいですね。今後、白石市の観光産業を食の観点から支えつつ、子どもたちへの食育など、地域貢献のお役に立てればと思っています。



▲白石温麺と落ち着いた雰囲気のやまぶき亭店内

温泉

湯主一條女将 一條千賀子さん



お客さまへのおもてなしで大切に行っていることは「歓迎の気持ち」です。そして、インバウンドのお客さまに言葉の面でも寄り添えるよう、英語、中国語、韓国語、スペイン語の対応スタッフをそろえています。

日本の観光需要はオーバーツーリズムの地域もあります。白石城主片倉小十郎公が伊達政宗公を支えたように、この地が宮城県の観光産業を支えられ

るようにしたいですね。そのためには、街全体での観光客への歓迎ムードが大切だと思います。すれ違った市民が、HELLO（ハロー）の言葉と笑顔を投げかけたら、観光客はきっとうれしいのではないのでしょうか。観光客への積極的な声掛けは、市全体でのおもてなしにつながると思っています。



▲歴史ある湯主一條の外観（国指定登録有形文化財）

本市への観光リピーターの多くは、体験活動の対応者、工人や旅館スタッフなど、観光産業の支え手との再会を求めていると聞きます。支え手の存在こそ、本市の観光産業の大きな力と言えるでしょう。

6 本市が目指す観光産業とは

観光産業は、先に述べたとおり、市外から外貨を稼ぎ、市内の経済を活性化できる産業です。また、国内外から本市への誘客を図り、人と人がつながることとで、地域活性化の切り札に成り得る産業でもあります。そして、本市が目指す観光産業にはまだ先があります。

本市に住む人々が、観光産業のもたらす地域経済の向上や地域活性化などの恩恵により、あらためて自身の住むまちへの愛着と幸福度を高めることができたなら……。

それこそが、本市の観光産業が目指す未来図であり、願いでもあります。

その実現に向け、「光」を放つ多くの支え手とともに、一歩ずつ確かな歩みを目指します。